

我孫子市消費者の会

お知らせ

2012年10月16日 第38期 No. 7-436号

事務局 〒270-1143 我孫子市天王台3-7-1-201 和田三千代方 TEL 04-7183-1434

バス見学会予告

少し早い予告ですが、忙しい会員の方ばかりですので、お知らせしておきます。

25年1月28日(月)

自然エネルギーの進捗状況を見に行きます。

- ・神乃池バイオマス発電所
- ・鹿島風力発電所(10基)

詳細は後日お知らせします。

県民提案事業予告

これも予告です。消費生活の安定及び向上に向けた県民提案事業を今年も開きます。

25年1月20日(日) 13:30~16:00

アビイホール(イトーヨーカドー3F)
悪質商法の講演と創作落語です。

11月定例会

11月5日(月) 13:30~16:00

我孫子南近隣センター 8F 調理室
見守りネットワークのDVDを見ます。

消費者の会ホームページ

しばらく故障で開けませんでした。会員の竹中真里子さんの息子さんが作り替えてくださって、ネットで「我孫子市消費者の会」で、検索できるようになりました。こどもが明るく元気に走っています。講演会等催しのPRと、会のお知らせも年度毎に保存されています。

これから数人が入力の方法を教えてもらって、迅速に情報をアップ出来るようにしたいと思います。どうぞ時々覗いてください。

「高齢社会への対応を探る」催し終了

10月6日、けやきホールいっぱいの参加者を得て、今年度のイベントが開かれました。「病院で死ねない時代~我孫子での対応を探る」という題でした。

NHKクローズアップ現代「もう病院で死ねない」の放送があつて、では、私たちはどうしたら良いかと考えていたときに、柏市豊四季台での国のモデル事業を知りました。

どんな事業かを具体的に木村清一氏に話していただきました。そして、訪問看護師の西柳和嘉子さんと、在宅医療の地域連携を進めようとしていらっしゃる星野哲夫医師のお話、我孫子市高齢者支援課の國田千以子さんの市としてのお話もいただきました。それぞれに情熱を籠めてのお話で、私たちが今後、安心して暮らすためのヒントが得られたのではないかと思います。ご出席くださった方のご感想、ご意見をいただければ幸いです。

この高齢社会への対応を探る会は、団体の中から順番で会長を出して、今年は消費者の会の担当でした。挨拶の中でこの会をなぜ開いたのかについて、不十分ながら主旨を話しましたので、ここに再度掲載させていただきます。お読みください。

皆さんこんにちは。高齢社会への対応を探る会の今年の会長、和田三千代です。この会はお手元の資料にもありますように、27の団体と個人、関係の行政機関も参加していただいている会で、途中で名前が変わりましたが、今年で27年目になります。我孫子で安心して老いるために、市民と一緒にシステムを作ろうといろいろなことを考えてきました。

この数年「高齢者を地域で支えるネットワーク作り」を大きなテーマとして、災害時の見守りや、日常の交



流についても活発な町を作る事をめざして来ました。

さて、今回のテーマ「病院で死ねない時代」をみて、びっくりなさった方も多いと思います。少し刺激が強すぎたかと、案じている面もありますが、今年5月29日に放送された、NHKのクローズアップ現代という番組をご覧になりましたでしょうか。「もう病院で死ねない」というタイトルでした。国の方針が在宅医療へと大きく進み、高齢でひとり暮らしであっても、1ヶ月で退院を迫られる実状を報告していました。病院での治療から在宅での治療へと移行しています。

私は、病院で死ぬことをよしとしているわけではありません。例えば脳梗塞で意識がなくなっても、延命治療を望む人が多いのですが、本人にとっては苦痛だけかも知れません。自分の意思がしっかりしているうちに、深く考えなければならぬ問題だとも思い、今日のプリントにも意志表示の例を一枚入れました。

ただ、在宅でと言われても現実には様々な人がいて、家族がいない人、家族がいても海外勤務の人もあります。女性も働く時代です。親の介護は家族がするというわけにはいかない人がいるのが、実状でしょう。現在は80%の人が病院や施設で亡くなっています。それならどうしたら、少しでも安心出来るのか、とみんなで考えて来ました。

今日は柏市の豊四季台団地で、国のモデル事業として、東大、UR、柏市との連携で、訪問治療、訪問看護の充実はもち論、さまざまなシステムを作りつつある木村さんにお話をさせていただくことになりました。

そして、我孫子ではどうしたら良いかを考え、訪問看護ステーションを立ち上げられた西柳和嘉子さんと、訪問診療に力を入れようとしていらっしゃる星野哲夫先生に、現状報告と共に、これからのことをお話いただくことになりました。また、我孫子市として、国田千以子さんには、市民も含めての連携に向けてのお話をさせていただくことにいたしました。

医療費の増大が国の予算を逼迫させているのは事実です。昨年度37兆円の医療費のうち、60歳以上の医療費が1兆7兆5000億円と聞くと、現在も大変ですが、団塊の世代が高齢期を迎える頃は、今までのシステムではとても対応しきれなくなるとの認識を共有していただく必要があるとも思います。

最後には質問、意見交換の時間も取っています。今日のこの会で結論がでなくとも、何らかの先の見通しにつながれば幸いと思います。

どうぞ最後までお聞きくださるよう、よろしくお願いいたします。

「食品表示の一元化」問題

皆さんは食品を買うとき、表示をどのくらい読んで選んでいらっしゃいますか。たとえ全部は読めなくても、食べた後にでも書かれているものを読んで、納得すれば次にも買うでしょうし、表示がいい加減なら、次回はその食品を選ばないのではないのでしょうか。

新聞等で報じられていますが、今まで担当の省庁がバラバラだった食品に関する表示を、消費者庁でまとめて取り扱おうと、検討委員会で10回の会議の後、報告書が提出されました。

厚生労働省の食品衛生法、健康増進法、農林水産省の農林物資の規格化及び品質表示の適正化に関する法律（JAS法）を消費者庁の管轄として「一元化」しようとするものでした。

この報告書をめぐって今、様々な団体から意見が出されています。

①3つの法律だけを一元化するのはなぜなのか。食品の表示は景品表示法、酒類の表示、米の表示、計量法等々色々あるのに。

②添加物の一括表示は止めて、個体の表示をすべき。

③遺伝子組み換え食品、原料の原産地表示を加工食品にも義務付けるべき。

④そもそも食品の表示は消費者の「知る権利」「選ぶ権利」のためのもの。その意識付けを法律の中に明記すべき等々。

私たちも、折角の改正の機会に、あるべき食品表示の姿を実現させたいと思います。裏面に、一緒に活動する団体が出した9月25日の要望書を印刷しました。お読みください。

「手賀沼流域フォーラム全体会」

10月13日、水の館で2人の素晴らしい講演がありました。親水広場所長の佐藤友宣さんは、手賀沼について実に分かりやすく説明し、生物が繋がり生きていく生物多様性のサイクルをつくれれば自然にCODが下がっていくと話されました。

気仙沼でカキの養殖をしてこられた畠山重篤さんは、津波で何もかも無くなり、絶望していたが、ある日、日毎に増えていく小魚を見て、「海が壊れたわけではない、生き物を育てる海はそのままなのだ」と思い、勇気が出たと。汽水域、鉄の重要性等、満席の人々を魅了しました。